史跡

# 東之宮古墳

ひがしのみや

撮影日：2013年12月8日

# 東之宮の至宝

竪穴式石槨からは、銅鏡11面、石製合子2点、石釧3点、鍬形石1点、車輪石1点、ヒスイ製勾玉など玉類、鉄刀など鉄製品、優れた副葬品の数々が出土しています。これらの副葬品はすべて国の重要文化財に指定されており、実物は京都国立博物館で展示されています。

人物禽獣文鏡C

出土した11面の鏡のうち4面は、奇妙な人物や獣など特徴的な文様が描かれた「人物禽獣文鏡」でした。

石製合子

鉄製品

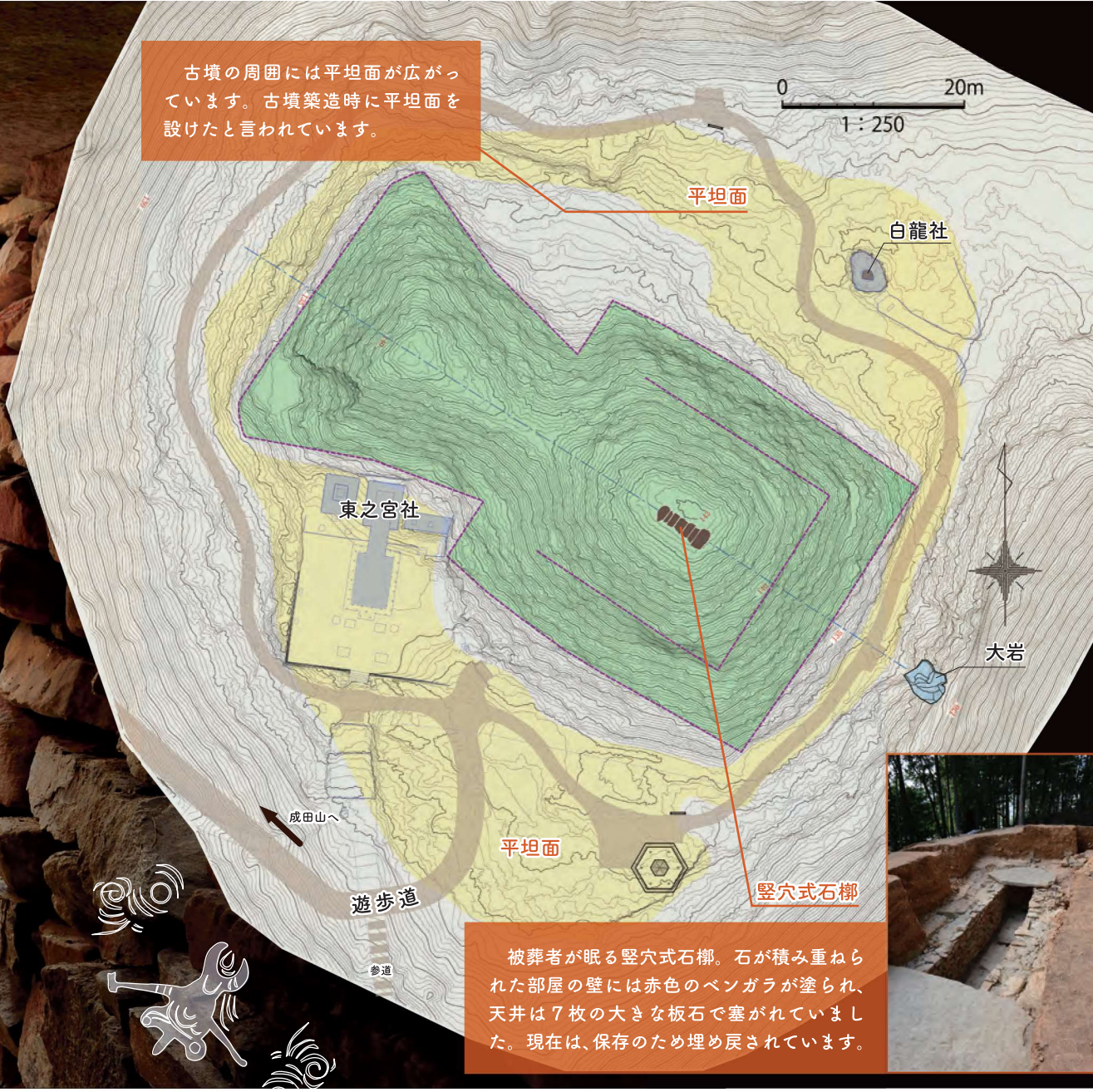
ヒスイ製勾玉

石釧

三角縁唐草文帯三神二獣鏡

発行年月日　令和3年3月
発行　犬山市教育委員会
編集　NPO法人古代邇波の里・文化遺産ネットワーク

古墳の周囲には平坦面が広がっています。古墳築造時に平坦面を設けたと言われています。




被葬者が眠る竪穴式石槨。石が積み重ねられた部屋の壁には赤色のベンガラが塗られ、天井は７枚の大きな板石で塞がれていました。現在は、保存のため埋め戻されています。

# 蘇る 冬至の王

１年で最も日照時間が短くなる日、冬至。太陽の力が再び輝き出す「はじまりの日」でもあります。東之宮古墳の墳丘、竪穴式石槨、棺の主軸線は全て、この冬至の日の出の方角と一致しています。冬至の明け方、後方部の真ん中から眩いばかりの陽の光が古墳全体へ差し込みます。この瞬間のために、東之宮の王はここに古墳を築いたのでしょうか。

1700 年の時を越えて、「冬至の王」に出会える瞬間がここにあります。

## 濃尾平野を見下ろす王の墓

# 東之宮古墳

東之宮古墳は、白山平山（はくさんびら）（標高 143 m）の山頂にある、全長 72 mの前方後方墳です。

3 世紀の終わりから 4 世紀のはじめごろに作られた、この地域を治めた王様のお墓です。古墳からは濃尾平野一帯を見渡すことができます。

昭和 48 年（1973）、盗掘をきっかけに発掘調査が行われ、竪穴式石槨（たてあなしきせっかく）から銅鏡や石製品などの豊富な副葬品が見つかりました。その後、平成 17 年（2005）から実施した調査から、古墳全体が石（葺石（ふきいし））で覆われていたことや、山頂部を平坦に整地した後に、全て盛土で墳丘をつくりあげたことがわかっています。東之宮古墳は、埋葬施設や質・量ともにすばらしい副葬品が揃っていることから、東日本の前期古墳を代表する古墳です。

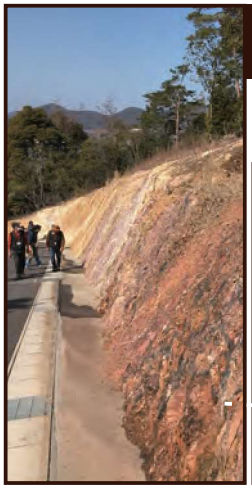
## 東之宮古墳周辺マップ

### 徒歩での所要時間

犬山駅 ― 20分 ― 妙感寺古墳 ― 35分 ― 東之宮古墳 ― 20分 ― 犬山遊園駅

### 妙感寺古墳（みょうかんじ）

春には美しいヒガンサクラが咲き誇る、妙感寺境内にある前方後円墳。墳頂からは、東之宮古墳がある白山平山が望めます。全長は約 95 mで、周囲には堤の一部も残っています。



白山平山全体が「チャート」の岩盤でできており、古墳へ向かう遊歩道で、その露頭を見ることができます。

墳丘の葺石。石の多くは「チャート」と呼ばれる赤い角礫ですが、一部河原石も使われていました。

## 「邇波（にわ）」の大王

東之宮古墳と犬山扇状地を望む

犬山市域を含む旧丹羽郡は、「邇波（にわ）」といわれた領域に相当すると考えられています。この「邇波」の地を最初にまとめた人物の墓こそが東之宮古墳とされ、その後、青塚古墳、坊の塚古墳、妙感寺古墳の順に、古墳時代前期の大型前方後円（方）墳が「邇波」の地につくられていきます。